



ポリネコ!

データ・ファクトに基づく相互理解と合意形成を実現する  
新しいコミュニケーション『ポリネコ!』は、こういうものです。

PoliNeCo! : Political Needs Coordinator



株式会社ハンマーバード  
東京都品川区荏原6-2-5  
代表 岩田崇 (takashi@hammerbird.jp)



岩田崇  
プロフィール  
<https://bit.ly/31JMHgR>

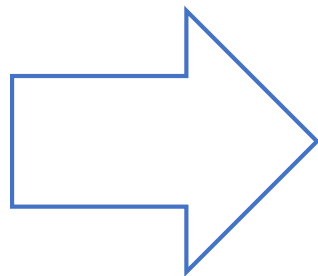
2022年3月14日  
6月21日加筆

# Q.近代以降の現代文明の課題とは？

社会の最高権力「主権」が、法律上は、1億人以上の人々に分散所有されるようになっていてもコミュニケーションの仕組みは、ほとんど変わっていません。設計（法）と実装（現実）の間に存在する矛盾の放置が、社会と文明の発展を妨げています。

Q.主権（自治）の所有者が何億倍にも拡大。では、コミュニケーションはどうあるべき？

**主権**  
1名・独占所有



**国民主権**  
数千万から億人・分散所有



# A. 私達が主権者\*として暮らせるコミュニケーション



回答を通じてデータやファクトを参照（知り、学ぶ）することで、先入観や誤解を最小化した意思を表明し、その意思を相互参照することで、地域や社会、企業や学校などのコミュニティにとっての最適解、納得解を『信頼/TRUST』に基づく形で構築できる特許技術による新しいコミュニケーションの仕組みです。

地域や  
社会で

- 国会や地方議会も含めた運用によってSociety5.0、SDGsに対応する新しい民主制が可能になります。（現在は不可能な国民的議論、地域を挙げた議論の社会実装）

企業や  
学校で

- 企業や学校などのコミュニティでは日常のコミュニケーションでは対応が困難な、個々人の意思に基づく共通のビジョン、共通の目標構築が行えるようになり、価値観の共有によるイノベティブな人材育成と組織経営が可能になります。

# これまでのコミュニケーションの限界

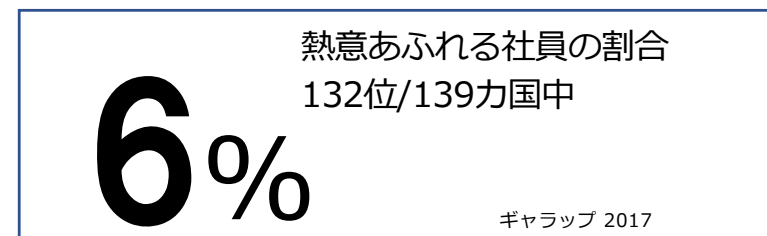
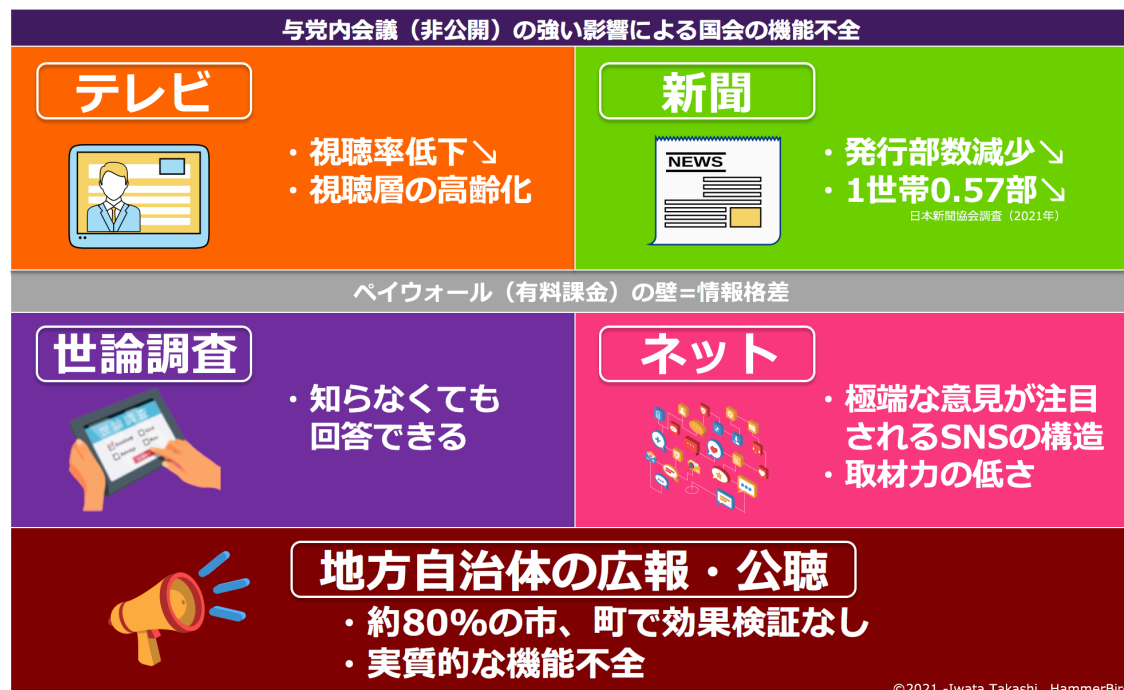
## “万機公論に決すべし”は、154年経っても未だに実現していません

・五箇条の御誓文（1868）

- ・近代日本は、\*”万機公論に決すべし”からはじまり、現在の日本政府も同様の認識を持っています。
- ・しかし、この万機公論に決する=国民的議論は、21世紀になった現在も実現できていません。
- ・メディア環境は下図のように機能不全状態であり、地域でも国でも主権者が主権者として暮らすことが困難です。
- ・主権者が主権者として、適切にエビデンスを踏まえて意思表示をすることが困難な状況は、就労環境にも影響を与えており、企業内の人事システムは国際的にみても低評価です。
- ・これらの背景にあるのは、コミュニケーションが一方通行であることの機能的限界です。
- ・ロシアによるウクライナ侵攻戦争に見られるように、国民と政府の意思の一致していなくても戦争が起こり、凄惨な被害を生みます。これからの世界において、主権者のコミュニケーションは戦略的意義と価値を持ちます。

### ほぼ機能不全となっている社会と地域のコミュニケーション

### 評価の低い、日本の企業内コミュニケーション



企業組織内に心理的安全性、信頼を構築する仕組みがないことが大きく影響しています。

# これまでのコミュニケーションの限界

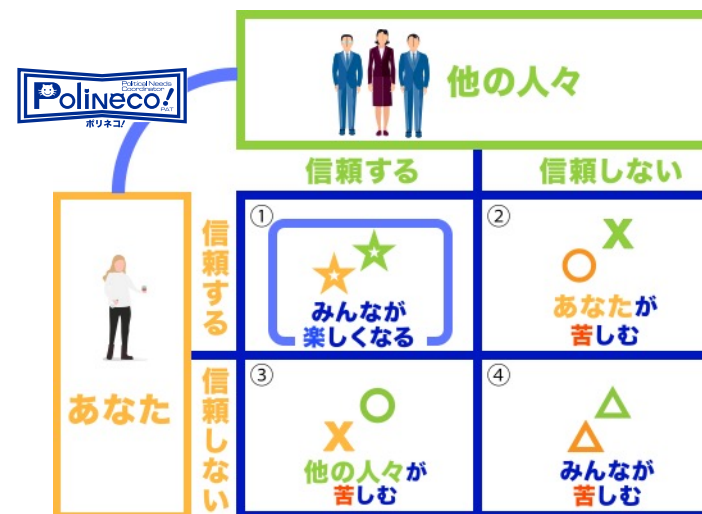
私達は、合理的な思考によって閉塞状態に向かう選択を行ってしまいます。

- ・ コミュニケーションが一方通行であることの機能的限界は、下図のようなゲーム理論における囚人のジレンマ構造によって表すことができます。
- ・ あなたと、他の人々が互いの考えを知ることが困難な状況では、相手を信頼することに常にリスクを伴います。
- ・ たとえば、正論を言って「では、君がやり給え」と不必要な責任を負わされることもリスクです。
- ・ そのため、リスクを負うことよりも、現実的かつ安全な選択は、相手を信頼しないこと（図中④）です。この繰り返しで、地域や社会、企業やコミュニティは衰退します。
- ・ 『ポリネコ!』は、参加者同士が共通のエビデンスを踏まえつつ対等な関係で意思表示し合うことで、これまで困難であった相互理解を可能にします。
- ・ 共通の目標、相互理解がある状態では相手を信頼することが合理的な選択（図中①）となります。この状態を実現する方法が『ポリネコ!』です。

相互理解を行う方法がない状態（合理的に④を選んでしまう）



『ポリネコ!』によって相互理解を行える状態（合理的に①を選べる）



# コミュニケーションの限界を超える方法

共通のデータやファクトを踏まえた意思表示で、相互理解、合意形成が可能になります。

- ・さまざまな人々からの意見は、前提となる知識の差異や、先入観、誤解によって建設的な議論とならず現在のSNSに見られるように、暴力的なノイズとなってしまいがちです。
- ・『ポリネコ!』は、データやファクトといったエビデンスを知り、学び、確認できる機能（特許申請技術）によって一定の理解の上での意思表示を可能にします。
- ・そして、この意思を互いに（参加者同士、有識者、議会議員など）示し合いシンクロ状態を確認することで、お互いにとっての最適解、納得解を見出すことが可能となります。（特許技術）



実在性が担保された匿名回答（性別、年代、居住エリア、回答履歴）

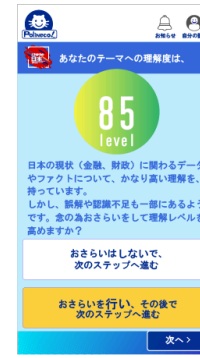
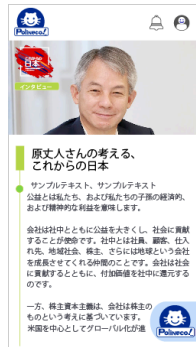
# 『ポリネコ!』の基本インターフェース

画面は開発中のイメージ

データやファクトを踏まえた意思表示が可能になります。

現状では、主観や先入観、思い込みで回答できる世論調査が主流ですが、このプロセスにより熟考を踏まえた輿論調査が可能になります。

## ①国民/住民に知ってほしいデータやファクト



ニュースサイトと同様の記事(動画含む)を集積し提供

記事を読んで、その先の顧客体験として回答参加と意思表示の機会を提供

アイコン(ネコの箇所)から設問についての紹介文を表示(ログイン画面を挟む)

### 正解のある設問(数問から数十問を提示)

社会課題に関連するデータやファクトを設問を通じて確認、学習できます。回答すると参考情報が表示され、その参照の上で、再回答を行います。この過程で情報不足で意思表示する状態を予防する

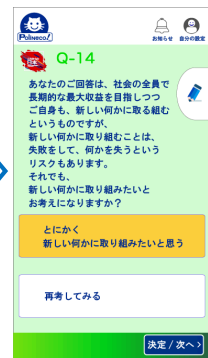
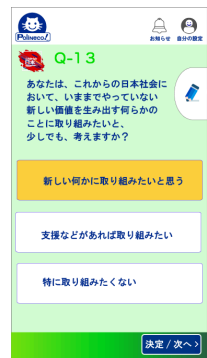
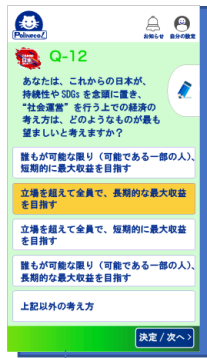
正誤の情報から理解度を表示一定の理解度の上で先に進めるかの判定の他、戻って回答するおさらいも可能

## ③データやファクトへの一定の理解度の上での意思表示

## ④意思表示をタイプで確認

## ⑤回答者が社会、行政に伝えたい意思

## ⑥意思表示の俯瞰的確認

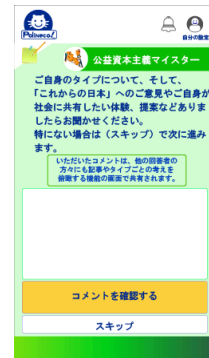


### 正解のない設問(数問を提示)

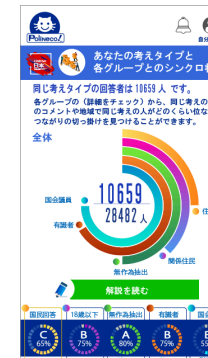
データやファクトを踏まえた上での、回答者の考えを確認。選択から予想されることも示すことで、強度の高い回答を回答者から引き出す



②と③の回答に基づき回答者の意思を回答タイプとして表示メリット、デメリット両面を表示。再回答も可能



自由記入の形式で回答者が任意に意見を入力可能入力内容はテキストマイニングで分析



回答状況全体を回答者の属性(無作為抽出、会員、議員、専門家等)ごとに表示



回答状況回答タイプごとの『色』で俯瞰できる形で確認できるよう表示

# 『ポリネコ!』の基本インターフェース

画面は開発中のイメージ

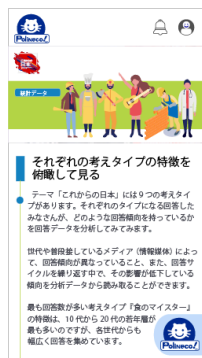
データ等を踏まえた<sup>自分と</sup>同じ考えの人々を確認することで社会、地域への信頼が醸成されます。

## ⑥ 意思表示の俯瞰的確認

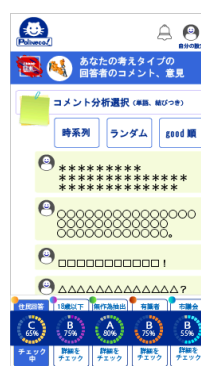


回答者の属性ごとの回答状況を  
確認可能

登録された郵便番号に  
基づき地域別の  
回答状況を  
確認可能



他の回答者の考えを  
分析記事として  
読むことで俯瞰



⑤に寄せられた  
コメントを読むことで  
他のタイプの意見も  
知ることができる

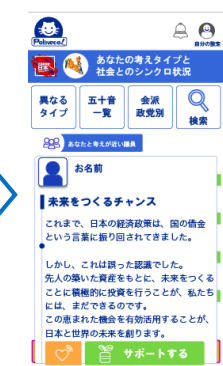
## ⑦ 議会（政治家）との連携（テーマに応じて選択）



議会全体との  
シンクロ状態を  
表示



同じ考えタイプの  
議員を一覧表示  
五十音や異なる  
タイプの表示など  
にも対応



議員ひとりひとりの  
回答コメントを  
確認し、レスポンスを  
送ることができる  
(建設的なやりとり)

## ⑧ 回答参加俯瞰的確認を踏まえたアクション



回答結果を確認すると表示されるアクションの画面  
SNSへのシェア、知人の招待、  
無回答議員への回答リクエスト（一定数貯まると取材  
申し込み）のほか、地域版の場合、地域商品券等との  
連携が可能。テーマの受付も行う

## 次のサイクルへ



メール配信・プッシュ通知  
(回答サイクルの運用)

- ・考えタイプごとに設問を配信し再集約することで、各タイプに持つ懸念、不安に対応した合意形成を実現
- ・属性ごとへのメール配信にも対応きめ細かい政策形成を実現
- ・このサイクルにより、誰ひとり取り残さない社会を目指すコンセプトSDGsにも対応できる政策形成、地域経営を実現

継続的なコミュニケーションサイクルが、  
社会、地域の課題解決を可能に

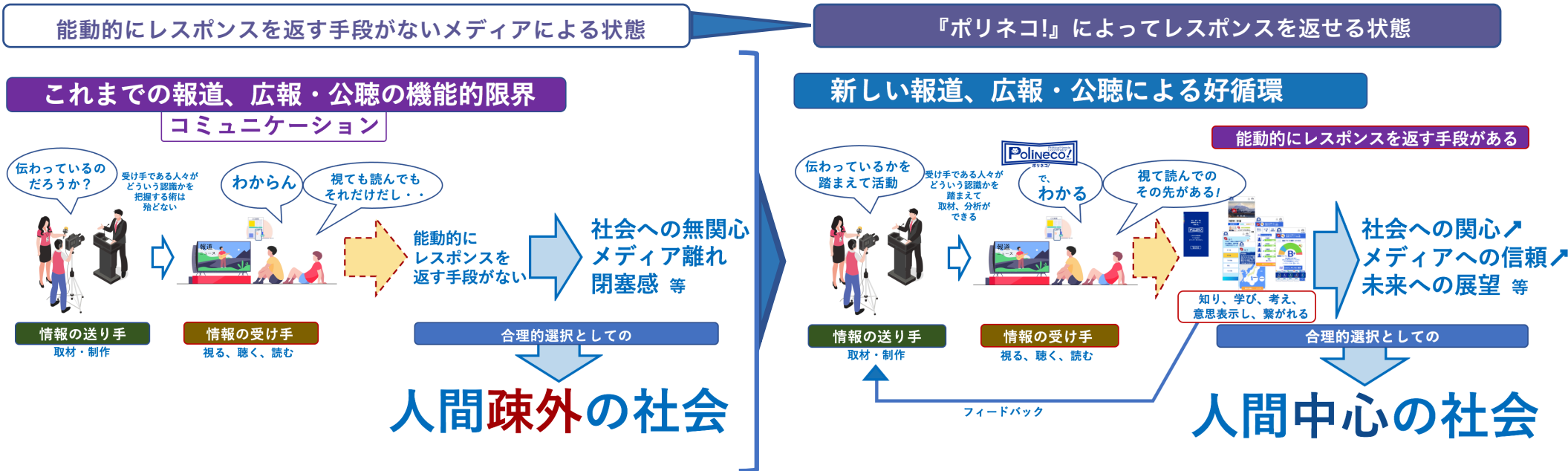




# 従来の報道、広報・公聴の機能的限界を超える方法

『ポリネコ!』は、テレビや新聞、自治体コミュニケーションの機能的限界の克服を実現

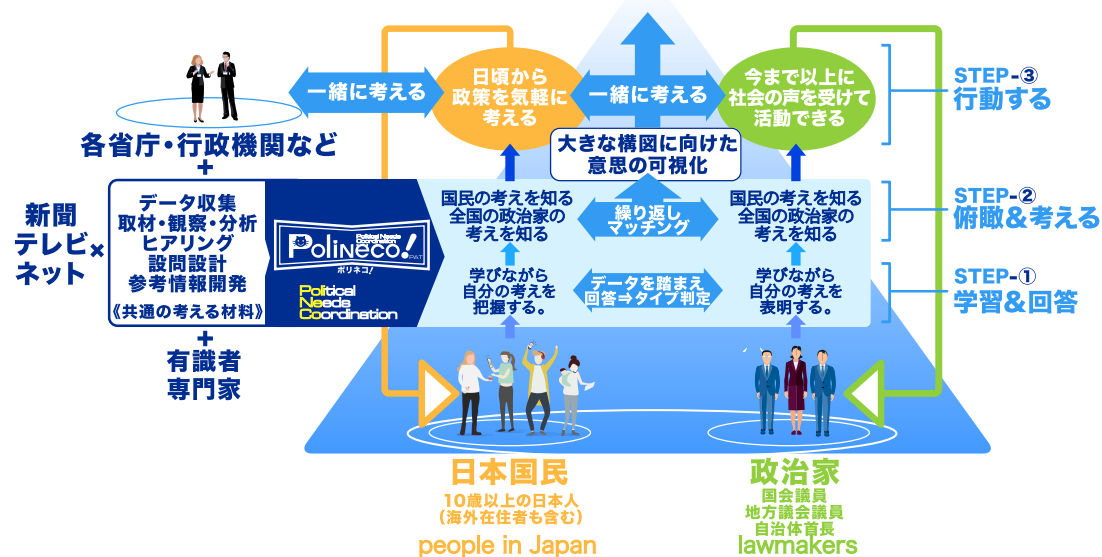
- ・現在のメディアの機能では、情報の流れが一方通行です。
- ・このため、どんなスクープも有識者会議等の提言も、一時的なもの、つまみ食いされるものに留まります。
- ・(情報の送り手)は、(情報の受け手)が、どのような認知をしているか、どこに誤解や先入観があるかを把握する術がありません。発信した情報がどう受け取られているかほとんど把握できません。
- ・一方、(情報の送り手)は、受け取った情報に対して能動的に反応〈レスポンス〉する術がありません。懸命に記事や番組を見ても、社会に参画する回路、機会に繋がっていないため、徒労感を覚えます。であれば、自分のことに時間を使うことが合理的な判断となって、社会が遠ざかります。
- ・ここに『ポリネコ!』を加えることで、(情報の送り手)は、人々がどのような認知を持っているかを把握でき、情報の伝わり具合を把握し、より改良できるようになり(情報の受け手)は情報を読み、視聴することが合理的な判断となって、社会参画しやすくなります。



# 信頼、協力ができる社会環境へ

“コミュニケーションのDXで、21世紀のデモクラシーが可能になります。”

- ・ データやファクトに基づく意思＝輿論を共有、相互参照できることで、立場を超えた相互理解が行いやすくなり、社会や政策領域ごとの共通目標を構築できるようになります。
- ・ 誰ひとり取り残さない社会の基礎となるコミュニケーションです。



# 信頼、協力ができる社会環境へ

## “目指す未来を人々を共有しながら見いだせる社会へ”

- ・ 相互理解と相互信頼ができないことは、リスクのある未来への挑戦よりも、前例踏襲しながら縮小再生産を選ぶ、同調圧力の強い環境を生み出します。（バックミラー社会）
- ・ 『ポリネコ!』は、地域な社会、企業やコミュニティ内において、相互理解と相互信頼を創ることで、未来に向けた共通目標を構築することを可能にし、その共通目標（ビジョン）に誰もか参画できるコミュニケーションネットワークとして機能します・
- ・ 外部環境をはじめ、エビデンスに変化が生じた場合は回答プロセスを更新することで、共通目標も柔軟に更新します。誰もがハンドルに少しずつ触れ作用を及ぼせる環境です。（総ドライバー社会）
- ・ 『ポリネコ!』は、Society5.0、SDGs、DXなどに対応する、人間中心の社会を実現するコミュニケーション・インフラとして機能します。

前が見えないバックミラー社会

目指す未来が見えるドライバー社会

